

暮らしの安心を支える仕組みを東京からつくります

2040年には3人に一人が高齢者になると言われています。

一方で、子どもや現役世代の数は急激に減り、家族の形も生き方も多様になりました。私たち現役世代はいつも時間に追われ、福祉や介護の世界は慢性的な人手不足が深刻。

“がんばり”では、もう支えきれない社会は目の前です。

暮らしの安心の土台を支える仕組みを、東京から。

「自分らしくいられる毎日」の大切さ

認知症の父は、家族の支えと介護保険、武蔵野市の福祉に支えられて、市内の自宅で暮らしています。

介護は排泄のことなど、人には打ち明けづらい悩みもつきもの。

それでも、武蔵野市独自の「認知症高齢者見守り支援ヘルパー」と、散歩したり思い出話をする時間は、「自分らしさ」を再確認できる大切なひとときだと感じます。

認知症は誰もがなる可能性のあるもの。

だからこそ本市の仕組みを東京全体へ広げ、高齢者の尊厳を守り、家族の負担を軽くする福祉を標準にします。

子育てと介護の
ダブルケアの
視点から



笹岡ゆうこの高齢者福祉施策

訪問介護を守る

訪問介護は高齢者の在宅生活を支える要。しかし、昨年4月の介護報酬引き下げで事業継続が困難になり、倒産や撤退する事業所が少なくありません。

報酬引き下げに対しては、東京都独自の補填措置を講じ、支援します。

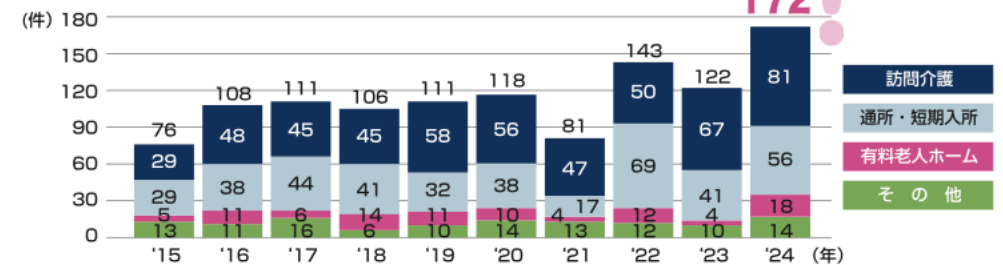
ひとり暮らし高齢者への支援

本市は独居の高齢者が多いのも特徴。入院や施設入所、亡くなった後の家財整理や事務処理等が不安や負担となっています。資産がわずかな方でも利用できる「入退院・没後の支援事業」を構築します。

※1のデータ(参考)

2024年の介護事業者の倒産件数は、過去最多の172件。(前年比で40.9%の増加)。特に訪問介護事業者の倒産は81件で、前年の67件から大幅に増加し、過去最多を更新。(東京商工リサーチの調査)

「老人福祉・介護事業」の倒産件数 年次推移



国より先に、
地域の声を
活かす東京

保坂展人世田谷区長×笹岡ゆうこ



多様な教育の場をつくる

笹岡：まず保坂区長といえば教育。私も今回「すべての子どもが、自分の歩幅で羽ばたける東京へ」を掲げています。世田谷区は学びの多様な学校にも取り組みまわっています。それらを地域差なく、東京全域に広げたいです。

保坂：「こういう場なら学べる」という多様なメニューを提供していくところからスタートしました。世田谷区でも不登校の子どもが、コロナ後に倍になっています。本来なら、少子化で子どもが減ってゆとりがあるはずだけど、逆の現象で競争が激しくなるのはおかしいよね。

笹岡：はい、周りの親子から不登校の多さや、受験の内申書のプレッシャーが厳しく、息苦しいという声があります。

保坂：私立学校の無償化によって、都立学校の危機とも言われています。だからこそ、東京で新しい教育を目指す、そんな議論をぜひしてください。

支えよう！介護人材

笹岡：介護の問題にも直面しています。ヘルパーさんの人材不足やケアマネさんの大変さも目にしています。現役世代が介護離職しなくてもいいという点でも、地域包括ケアの大切さを実感しています。

保坂：世田谷区は訪問介護事業所やケアで命を支えている福祉施設に緊急に経営支援の補正予算を決定しました。訪問介護で1箇所88万円、全体では8億7000万円。国が誤った時は自治体が直す。ケア労働が尊敬されてプライドをもつて現場に当たれることが大事です。

笹岡：その通りです。訪問介護の報酬引き下げについては都が補填すべきと考えています。

まちの再開発のカギとは

笹岡：都市の再開発について下北沢の例が大変参考になります。吉祥寺のこれからを考えるにあたって、その土地の文化や歴史を創ってきた住民参加なしではありえないですね。

保坂：昔は行政が勝手に絵を描け、いいと考えていた人も多いのですが、今の時代は逆。政治や行政は情報公開のプラットフォームを作って、多くの市民の知恵を入れていくことが大事です。

笹岡：良きコーディネーターになれるよう頑張ります。



皆さまの声でつくる
笹岡ゆうこの政策。
ご意見ご提案募集中！
詳しくはホームページ
をご覧ください。

